

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		17,754	t-CO ₂
（温室効果ガス削減換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		17,754

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量								
削減率（対基準年度）		%		%	%	%	%
温室効果ガスみなし総排出量				t-CO ₂	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）				%	%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度	/千台	令和 6 年度	/千台	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	/千台
原単位あたりの排出量	25.98		25.2		25.53		25.39	
削減率（対基準年度）		3.0	%	1.7	%	2.3	%
原単位あたりのみなし排出量				/千台	/千台		/千台
削減率（対基準年度）				%	%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

昨年度は老朽化により消費電力が高く効率の悪い空調機の更新、空調ダクト経路の変更による高効率化等を行うことにより、基準年度に対し3.1%過達となった。
本年度は炉の更なる効率運用や継続空調更新などの新規省エネアイテムを実施し、更なる省エネ活動を継続していく。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践 ・製造部門 ・間接部門	・時間当たり出来高の向上 ・不良率の低減 ・待機電力の極小化（不要電源OFF） ・間接業務効率の向上 ・こまめな省エネ活動の推進	・工場・事務所のエネルギー使用に伴う温室効果ガス排出原単位を令和6年度までに令和3年度比3%低減	・OEE向上による出来高向上 →稼働時間の最適化(縮小) ・ライン集約による夜勤シフト数削減による省エネ実施 ・間接業務効率化による夜間照明消灯 等
省エネルギー・省資源の行動の実践 ・冷暖房	・冷房28℃、暖房20℃の徹底 ・クールビズ、ウォームビズの推奨 ・工場寒風遮断対策により冬期暖房エネルギーの抑制		・事務所内冷房稼働時間・温度の管理・制限 ・工場責任者による、生産終了後の照明消灯、空調停止定期確認
省エネルギー・省資源の行動の実践 ・コージェネレーションシステムの高効率運転	・適正な運転パターンの選定と運用 ・冷暖房中間期の排熱利用の推進		・加工設備間欠運転への制御変更 ・コージェネによる排熱利用
省エネルギー・省資源行動の実践 ・熱処理炉の効率運用	・連続炉の空転低減 ⇒複数ある連続炉の一部に処理を集中させ、残りの炉を停止させる		・熱処理炉の効率運用、よせ止めによる計画停止

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

1. 環境方針及び活動計画の教育を実施し従業員に周知徹底できた。
2. 省エネ投資アイテム実施およびその刈取りを実施できた。
(第1工場空調改善、ダクトルート効率化等)
3. 産業廃棄物の有価化契約の締結

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

動力保安員に加え、休日も含めた工場責任者による巡視を追加実施し、改善点がある場合は結果を各現場へ報告した。
報告を受けた現場は直ちに是正処置を行い、無駄なエネルギーの削減活動に繋げた。